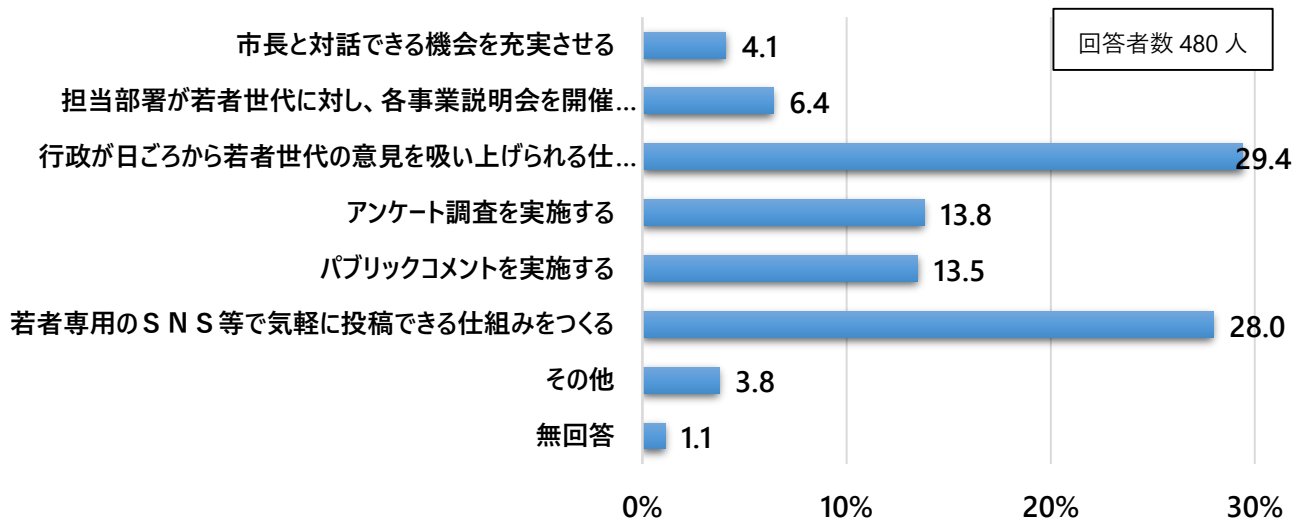


質問 19-2 若者の意見が市政に反映されるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(2つ選択)

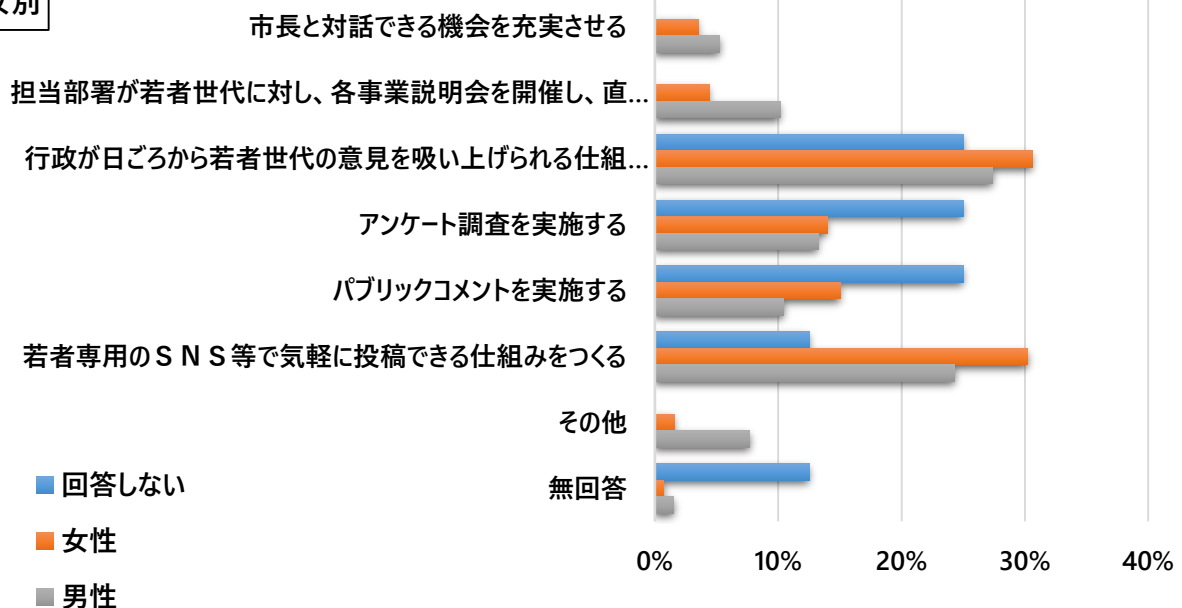
- 1 市長と対話できる機会を充実させる
- 2 担当部署が若者世代に対し、各事業説明会を開催し、直接的な対話の機会をつくる
- 3 行政が日ごろから若者世代の意見を吸い上げられる仕組みをつくる
- 4 アンケート調査を実施する。
- 5 パブリックコメント(市の政策や制度を定める計画等を定める際に、広く市民の皆さんに案を公表し、寄せられた意見に対し市の考え方を公表しながら作り上げる方法)を実施する。
- 6 若者専用の SNS 等で気軽に投稿できる仕組みをつくる
- 7 その他

質問 19-2 若者の意見が市政に反映されるために必要なこと

- 「行政が日ごろから若者世代の意見を吸い上げられる仕組みをつくる」が 29.4%で最も多く、次いで、若者専用の SNS 等で気軽に投稿できる仕組みをつくる」が 28%である。
- 男女別では、「市長と対話できる機会を充実させる」、「担当部署が若者世代に対し、各事業説明会を開催し、直接的な対話の機会をつくる」は男性の方が多く、「若者専用の SNS 等で気軽に投稿できる仕組みをつくる」は女性の方が多い



男女別

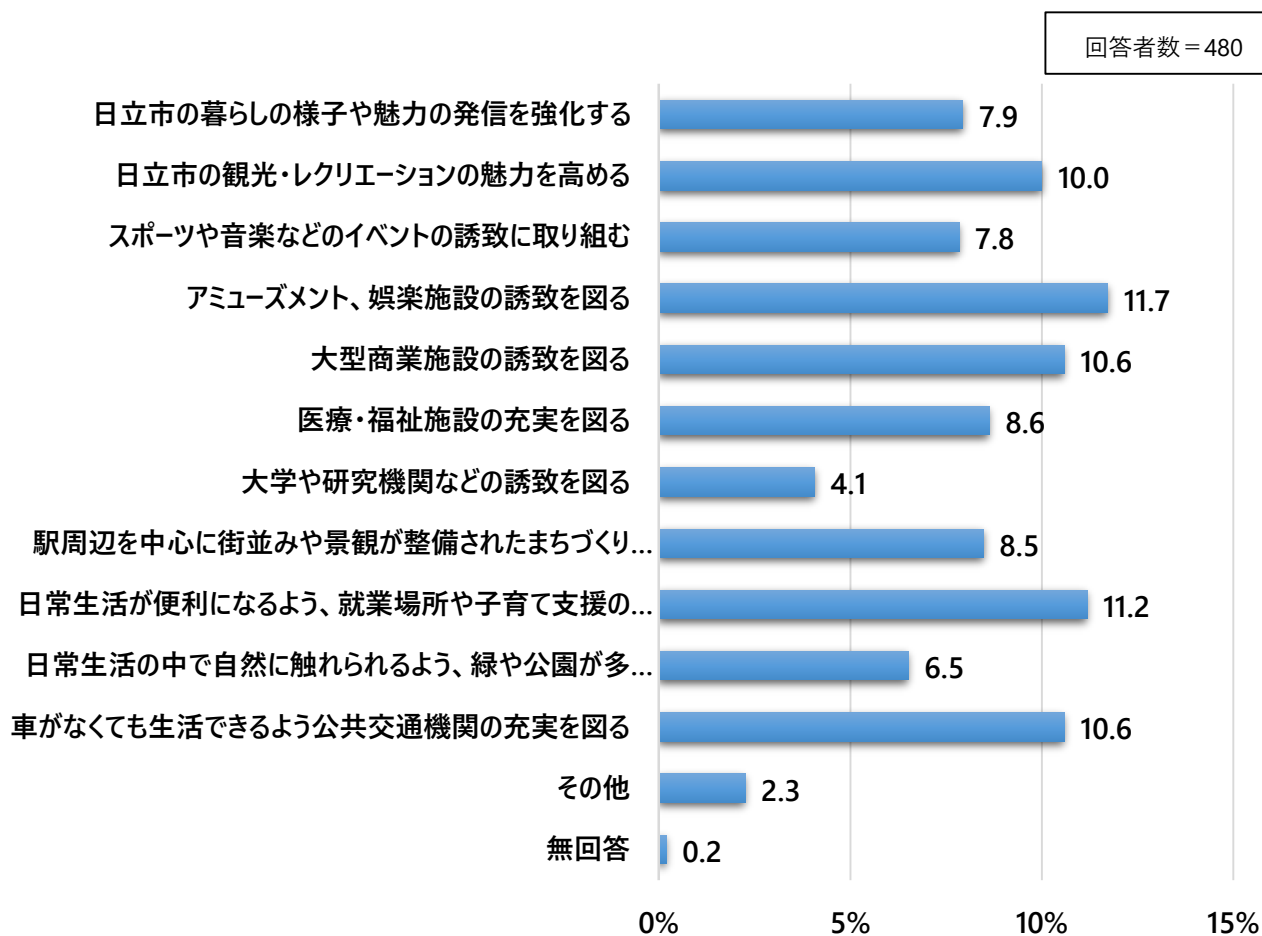


質問 20 日立市がこれからまちづくりを進めるうえで、市が積極的に進めるべき取組はなんだと思いますか。(複数選択)

- 1 日立市の暮らしの様子や魅力の発信を強化する
- 2 日立市の観光・レクリエーションの魅力を高める
- 3 スポーツや音楽などのイベントの誘致に取り組む
- 4 アミューズメント、娯楽施設の誘致を図る
- 5 大型商業施設の誘致を図る
- 6 医療・福祉施設の充実を図る
- 7 大学や研究機関などの誘致を図る
- 8 駅周辺を中心に街並みや景観が整備されたまちづくりを推進する
- 9 日常生活が便利になるよう、就業場所や子育て支援の場所を集約する
- 10 日常生活の中で自然に触れられるよう、緑や公園が多い環境づくりを行う
- 11 車がなくても生活できるよう公共交通機関の充実を図る
- 12 その他

質問 20 まちづくりを進めるうえで、市が積極的に進めるべき取組

- 「アミューズメント、娯楽施設の誘致を図る」が11.7%、「日立市の観光・レクリエーションの魅力を高める」が10%、「大型商業施設の誘致を図る」が10.6%で、娯楽や交流に関する取り組みが多い。
- 一方、「日常生活が便利になるよう、就業場所や子育て支援の場所を集約する」が11.2%、「車がなくても生活できるよう公共交通機関の充実を図る」が10.6%で、生活利便性向上に関することも多い。



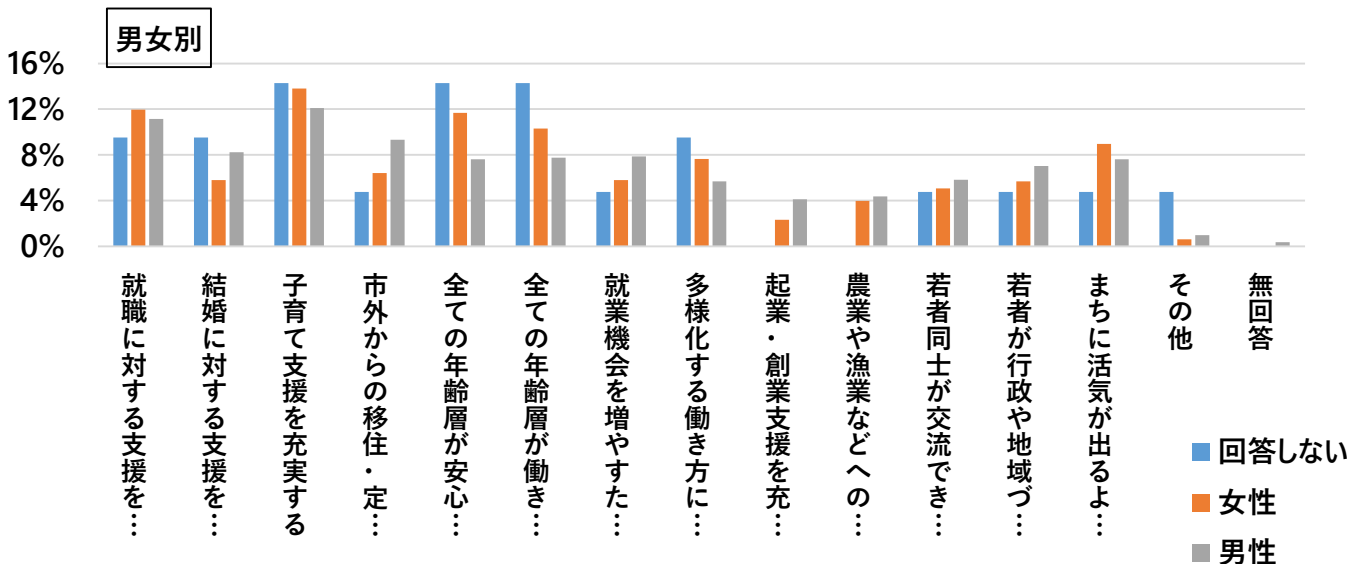
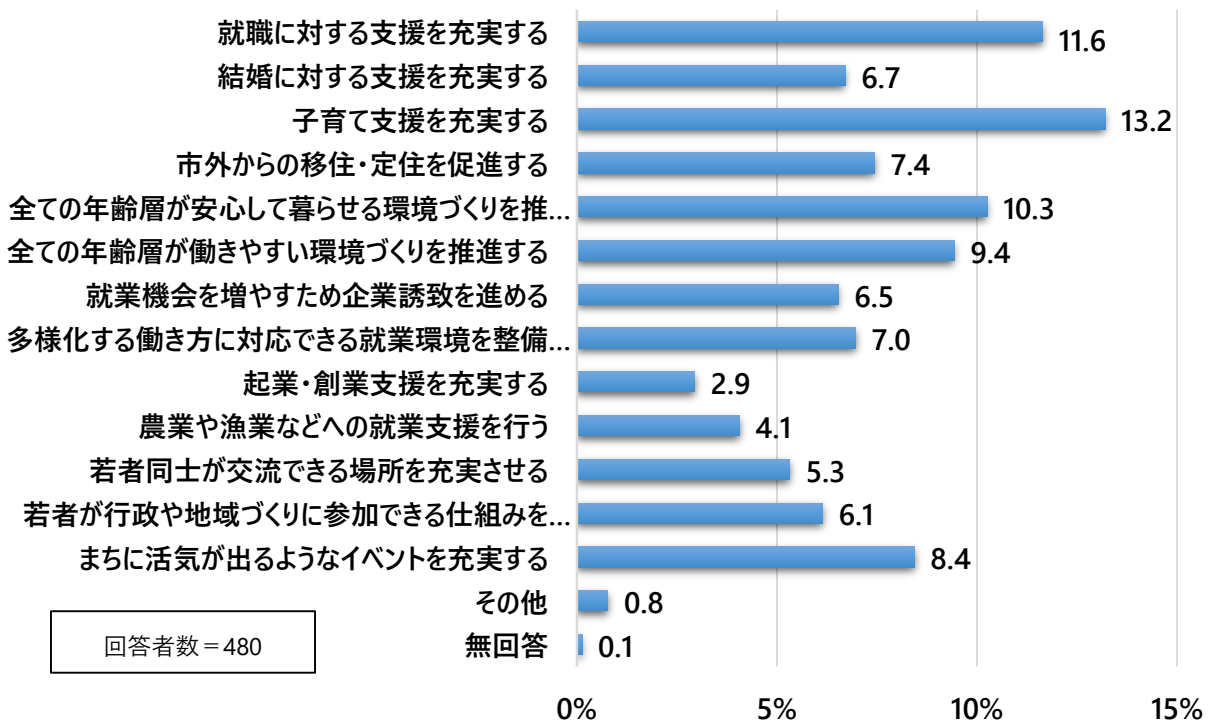
質問 21 日立市がこれから若者世代に対する支援を進めるうえで、市が積極的に進めるべき取組はなんだと思いますか。(複数選択)

- 1 就職に対する支援を充実する
- 2 結婚に対する支援を充実する
- 3 子育て支援を充実する
- 4 市外からの移住・定住を促進する
- 5 全ての年齢層が安心して暮らせる環境づくりを推進する
- 6 全ての年齢層が働きやすい環境づくりを推進する
- 7 就業機会を増やすため企業誘致を進める
- 8 多様化する働き方に対応できる就業環境を整備する(リモート、在宅勤務等)
- 9 起業・創業支援を充実する
- 10 農業や漁業などへの就業支援を行う
- 11 若者同士が交流できる場所を充実させる
- 12 若者が行政や地域づくりに参加できる仕組みをつくる
- 13 まちに活気が出るようなイベントを充実する
- 14 その他

質問 21 若者世代に対する支援を進めるうえで、市が積極的に進めるべき取組

○「子育て支援を充実する」が最も多く 13.2%、次いで「就職に対する支援を充実する」が 11.6% と多い。

○男女で比較すると、男性は「結婚に対する支援」女性は「就職・子育てに関する支援」が多い。



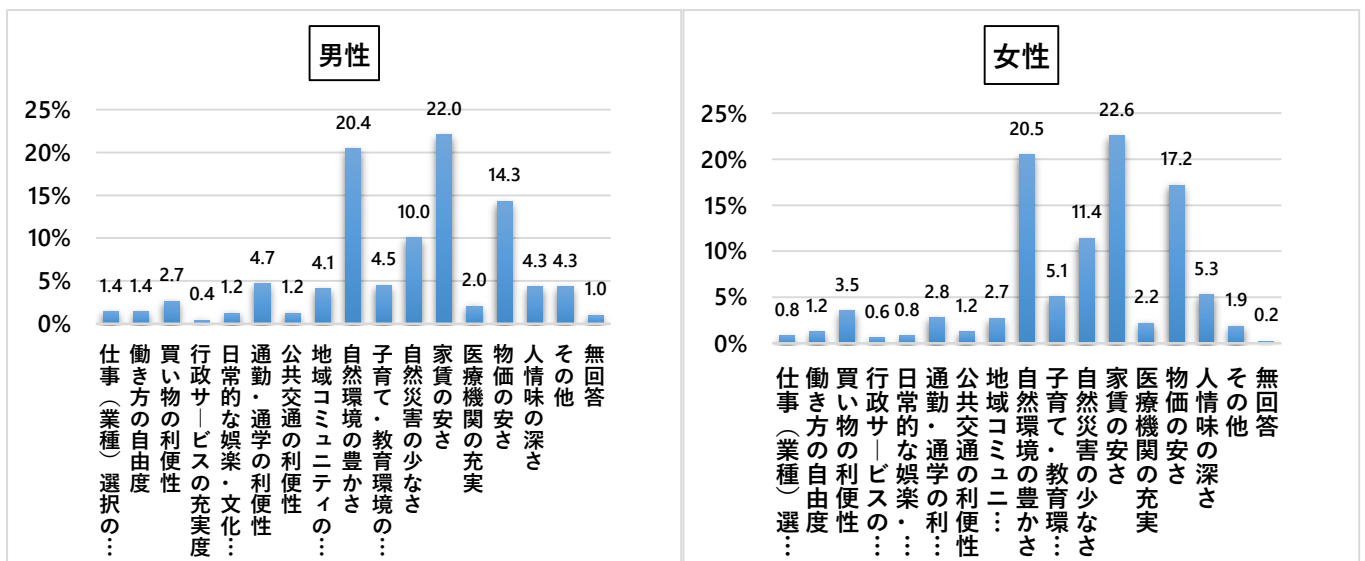
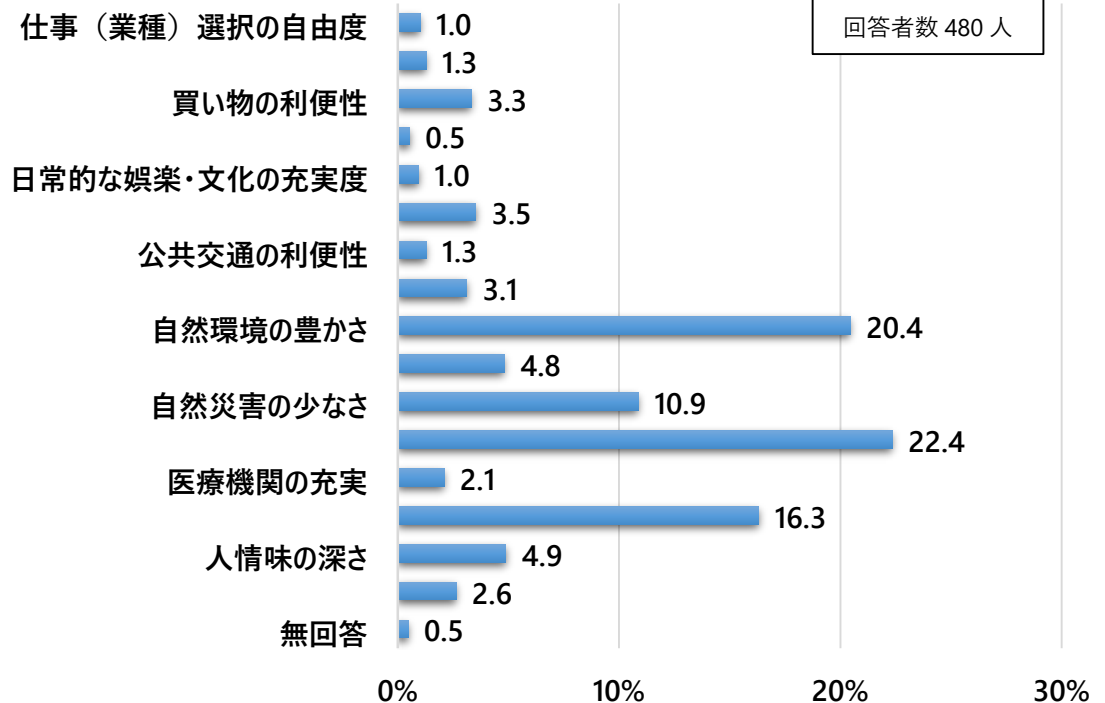
質問 22 東京周辺のような大都市圏に住むより、日立市のような地方に住むことのメリットを教えてください。(複数選択)

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------|
| 1 仕事(業種)選択の自由度 | 2 働き方の自由度 | 3 買い物の利便性 |
| 4 行政サービスの充実度 | 5 日常的な娯楽・文化の充実度 | 6 通勤・通学の利便性 |
| 7 公共交通の利便性 | 8 地域コミュニティの充実 | 9 自然環境の豊かさ |
| 10 子育て・教育環境の充実 | 11 自然災害の少なさ | 12 家賃の安さ |
| 13 医療機関の充実 | 14 物価の安さ | 15 人情味の深さ |
| 16 その他 | | |

質問 22 大都市圏に住むより日立市に住むことのメリット

○「家賃の安さ」が 22.4%で最も多く、次いで「自然環境の豊かさ」が 20.4%、「物価の安さ」が 16.3%である。

○男女で比較すると、男性は「通勤・通学の利便性」、「地域コミュニティの充実」が多く、女性は「買い物の利便性」が多い。



質問 22-1 日立市のような地方に住むことのデメリットを教えてください。

→別紙

質問 23 あなたが住む地域や場所を選ぶにあたり望ましいと思う要素はなんですか。次の各要素について1つ選択し、各要素の中でも重視する上位3つを選択してください。

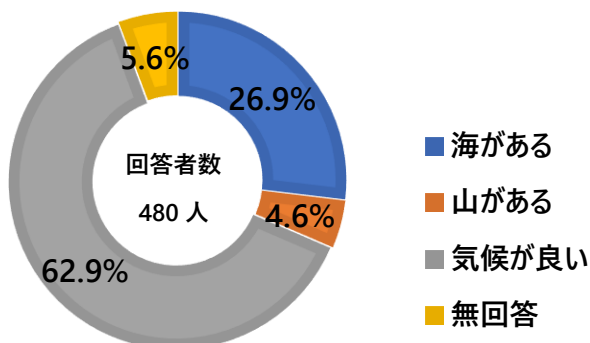
要素	内 容（1つ選択）		
自然環境	<input type="checkbox"/> 海がある	<input type="checkbox"/> 山がある	<input type="checkbox"/> 気候が良い
住む場所	<input type="checkbox"/> 駅の徒歩圏	<input type="checkbox"/> 郊外の住宅地	<input type="checkbox"/> 集落
住宅	<input type="checkbox"/> 戸建てが買える	<input type="checkbox"/> マンションが買える	<input type="checkbox"/> 賃貸住宅が多い
通勤環境	<input type="checkbox"/> 家と職場が近い	<input type="checkbox"/> 車で通勤しやすい	<input type="checkbox"/> 公共交通で通勤しやすい
企業の選択	<input type="checkbox"/> 大企業が多い	<input type="checkbox"/> 中小企業が多い	<input type="checkbox"/> ベンチャー企業が多い
働き方	<input type="checkbox"/> 正社員になる	<input type="checkbox"/> 自由に働ける	<input type="checkbox"/> 起業・創業する
通勤時間	<input type="checkbox"/> 30分以内	<input type="checkbox"/> 1時間以内	<input type="checkbox"/> こだわらない
市街地	<input type="checkbox"/> 商業施設が多い	<input type="checkbox"/> 飲食店が多い	<input type="checkbox"/> オフィスが多い
緑	<input type="checkbox"/> 市街地に緑が多い	<input type="checkbox"/> 郊外に緑が多い	<input type="checkbox"/> 自然の中にある
緑の形態	<input type="checkbox"/> 森や林が多い	<input type="checkbox"/> 芝生広場が多い	<input type="checkbox"/> 公園が多い

質問 23 住む地域や場所を選ぶにあたり望ましいと思う要素

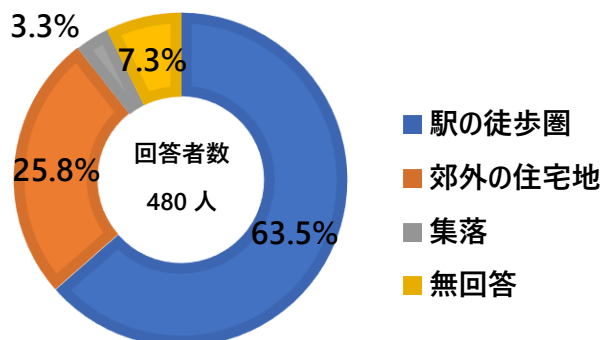
■望ましいと思う要素のあり方

- 自然環境は「気候が良いこと」が最も多く62.9%で、次いで「海がある」の26.9%である。
- 住む場所は「駅の徒歩圏」が63.5%、次いで「郊外の住宅地」で25.8%である。
- 住宅は「戸建てが買える」が最も多く65.4%、次いで「賃貸住宅が多い」で20%である。
- 通勤環境は「家と職場が近い」が42.7%と最も多く、次いで「車で通勤しやすい」である。
- 企業の選択では「大企業が多い」、働き方は「正社員になる」、通勤時間では「30分以内」、市街地は「商業施設が多い」、緑は「市街地に緑が多い」、緑の形態は「公園が多い」がそれぞれの1位である。

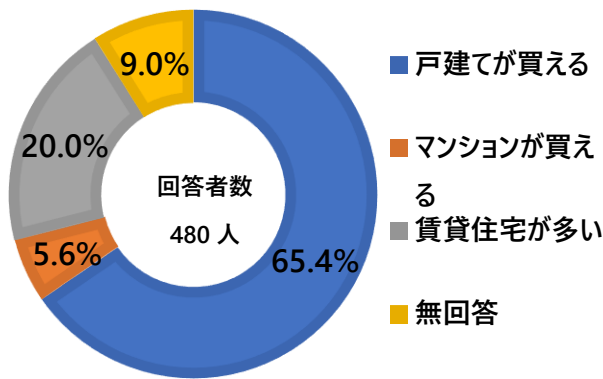
自然環境



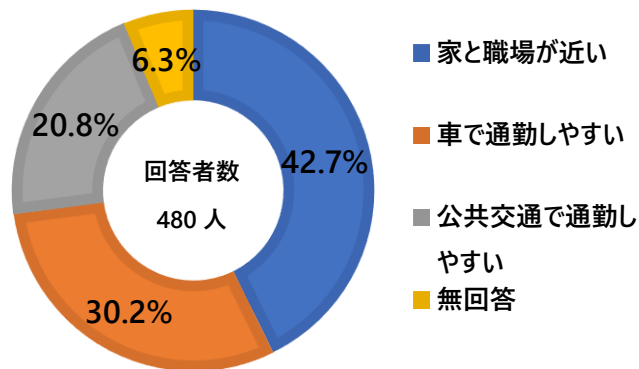
住む場所



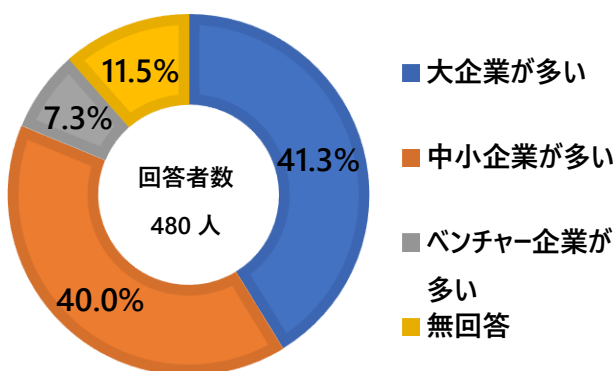
住宅



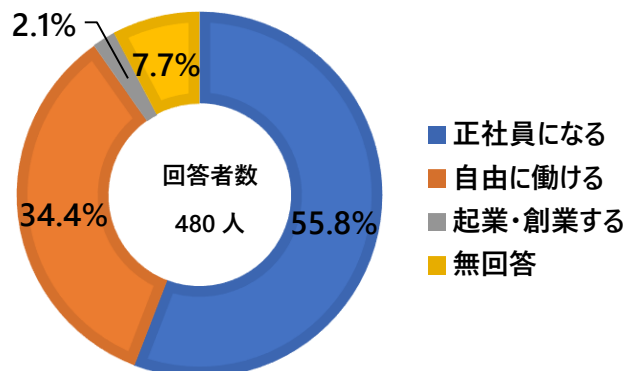
通勤環境



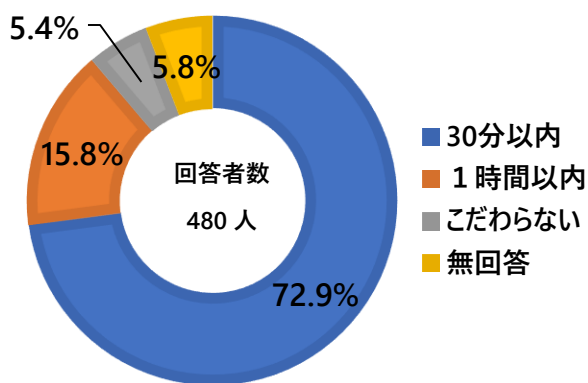
企業の選択



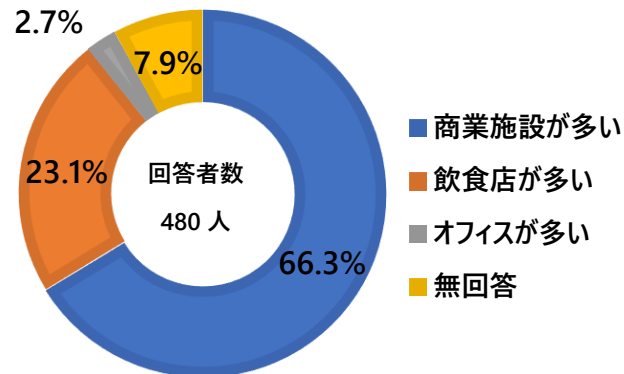
働き方



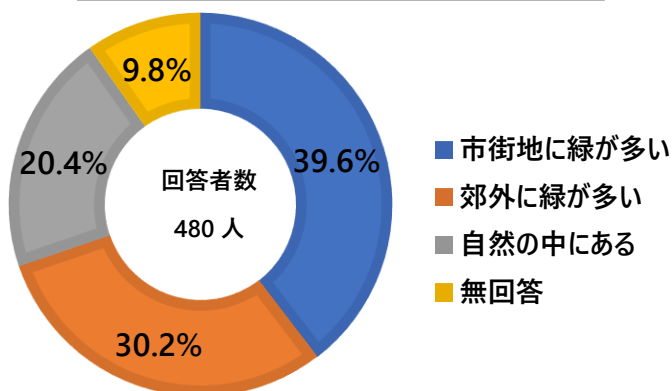
通勤時間



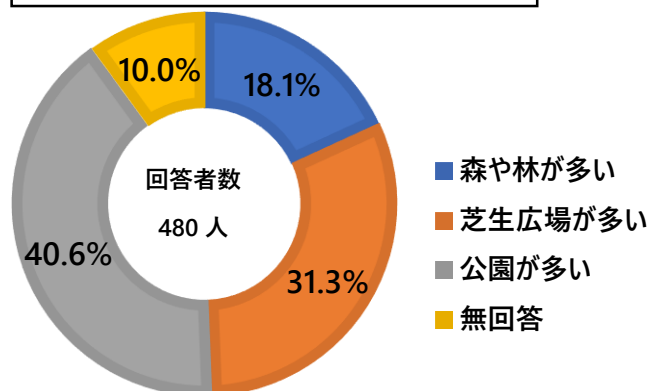
市街地



緑



緑の形態



■重視する要素

○重視される要素は、「通勤環境」が15.2%と最も多く、次いで「住む場所」が14.8%、「自然環境」が14.5%である。

○年齢別では、18～19歳と25～29歳は「自然環境」、20～24歳は「通勤環境」、30～34歳は「通勤時間」、35～39歳は「住む場所」が多い。

